

「 The 4th IWAKI & MEETING ! 」

こんにちは！いわき市保健福祉課・地域共生社会推進係です。

今回は、第4回目の「いわき市地域共生社会推進会議：IWAKI & MEETING」の様子についてご紹介します！

地域共生社会の推進に向け、昨年7月に設置した官民連携の会議。

今年、7月16日に開催した会議では、「立場を超えてつながり、認め合い、支え合う」をテーマに、(株)いわきスポーツクラブの吉崎様をゲストにお迎えして、震災で経験した自身の体験談や今の仕事やまちづくりへの想いなどについてお話しいただきました。

また、地域福祉計画の現時点での内容について意見交換をしました。



R8.7.16／総合保健福祉センター

ゲストスピーチ ▶ (株)いわきスポーツクラブ 吉崎 沙紀 氏



株式会社いわきスポーツクラブ／いわきFC
地域推進(ホームタウン担当)

2023年11月
株式会社いわきスポーツクラブに入社

現在の夢 **浜を照らす光となる**

ブランドとは、人の姿勢
勝つことでブランドはつくれない
地域に向き合ってこそ、つくられる

いわきFCが目指す地域共生社会とは？

世代を超えてつながる

立場を超えて支えあう

一人ひとりの「生きる」を輝かせる

一人ひとりのくらし・生きがいとともに

地域の皆様とつくっていく社会を

これからも目指していく

ゲストスピーチを受けて 委員からの主な意見

- ✓ いわきFCは地域づくりを進めていくパートナーとして欠かせない存在
- ✓ 地元にJリーグチームがあるのは子育て世代から見ても貴重な存在
- ✓ 震災当時は笑顔が少なかったが今は笑顔が出せるという言葉が印象的
- ✓ 障がいを持つ方もスポーツ観戦しやすい視点も地域共生社会には大切
- ✓ いわき市は震災を経験してお互いの助け合いのコミュニティが強いまち
- ✓ 震災を経験しているまちだからこそ防災の先進都市でありたい

新たな地域福祉計画 ▶ (仮)地域共生ビジョン

資料2 別紙

いわき市地域共生ビジョン(たたき台)



R8/7/16 時点

いわき市／令和9年●月策定

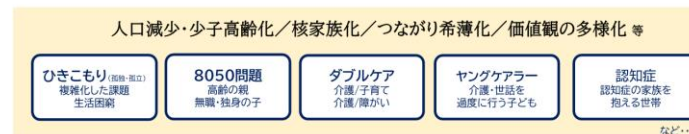
1 ビジョンの概要

ビジョンの目的

本市では、平成 19（2007）年に「いわき市地域福祉計画」を策定して以降、東日本大震災から得た教訓や経験、地域福祉に関する動向などを踏まえながら改定を重ねてきました。

また、いわき市社会福祉協議会が策定する「地域福祉活動計画」と連携しながら、多くの市民や団体が主体的に福祉活動に取り組み、ともに助け合い支え合う地域社会を基盤とした地域福祉を総合的かつ計画的に進めてきました。

近年の社会的背景



既存の縦割りシステム・制度ではカバーしきれない複雑化・複合化する支援ニーズへの対応

現在の地域福祉計画が令和 8（2026）年度をもって終期を迎えること、「地域福祉」の推進や「地域共生社会」の実現に向けた方向性や基本的な考え方、取り組みの考え方や方向性などを示すため、令和 9（2027）年度から、新たに「いわき市地域共生ビジョン」として策定します。

本ビジョンは、こうした状況を踏まえ、地域福祉の推進や地域共生社会の実現を通して、誰もが幸せを実感できるウェルビーイング(※)な社会を目指すものです。

ウェルビーイングとは
身体的・精神的・社会的に「well=良い」「being=状態」にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念

2026/7/16時点 たたき台

2 ビジョンの基本的な考え方・方向性

2040年を見据えた課題

2040年には、高齢者の増加と生産年齢人口の減少が進み、医療・介護・生活支援の需要が増大する一方、担い手確保が一層困難となります。

また、家族形態の変化、地域関係の希薄化が進み、孤独・孤立、ひきこもり、孤立死リスクが顕在化するなど、福祉ニーズは複合化・複雑化していきます。加えて、単身高齢者の増加、身寄りがいない、または親族関係が希薄な高齢者が増え、入院・退院、施設入所、金銭管理、意思決定、死後事務（葬送・住居の整理等）の支援ニーズが拡大します。

さらに、多死社会により、看取りの場面が増え、本人・家族の意思決定支援（ACP等）、介護者支援、死別後の生活再建、孤立死の防止など、生活課題が地域に顕在化します。

こうした変化に対応するため、福祉を「給付・支援」だけでなく、地域の関係性・参加・予防・住まい・移動・権利擁護・防災を含む“暮らしの基盤づくり”として再構築する必要があります。

2040年に向けたビジョン

本市は、少子高齢化と多死社会の進行の中にあっても、孤独・孤立を生まない地域のつながりを基盤に、誰もが身近な場所で相談でき、必要な支援につながり、人と地域と共生する「地域共生社会」を実現します。

本人の意思と尊厳を大切にし、子どもから高齢期、看取り・死別後まで支援が切れず、どこに住んでいても安心して暮らせるまちを目指します。

“つながり(&)が安心を生み、誰もが幸せを感じるまちへ”

2026/7/16時点 たたき台

新たな地域福祉計画への 委員からの主な意見(要約)

- ✓ 福祉の担い手不足を見据え、行政と地域の役割を考える。
- ✓ いわき特有の地域課題を明確にし、2040年への道筋を示す。
- ✓ 人口減少を見据え、行政と市民が共に地域を支える。
- ✓ 震災で培った絆やコミュニティの力を地域共生につなげる。
- ✓ 地域資源を見える化し、多様な人材や支援をつなげる。
- ✓ 多様性を認め合い、誰もが安心して暮らせる地域をつくる。
- ✓ 若者流出や健康課題など、いわきの課題を自分ごと化する。